

① 読む (言語感覚) 詩の心—発見の喜び

1 三編の詩の内容を捉える

- 1 「雲」(25)の詩について、次の問いに答えなさい。
- (1) この詩からは、人物のどんな行動の様子が伝わりますか。次の□に字数の合った言葉を書きなさい。
- 空に **ゆうゆう** と浮かんでいる雲に向かって、
どこまでゆくんだ と呼びかける様子。

読み取る 詩を味わい、鑑賞文の内容を捉えよう。

- 2 この文章で取り上げられている三編の詩の題名・作者名を、出さる順に書きなさい。
- (1) 題名 (**雲**) 作者名 (**山村喜鳥**)
 (2) 題名 (**虫**) 作者名 (**八木重吉**)
 (3) 題名 (**土**) 作者名 (**三好達治**)

4 まとめ (4) 今までよく見えなかったものを見、よく聞こえなかったものを聞く (**喜び**) を、詩の心は求めている。(27ページ(4)行〜終わり)

3 詩の心③ (3) よく見かける光景からの連想が比喩によって表されると、そこにある (**発見**) や驚きが、私たちの隠れた、気づかない詩の心を目覚めさせてくれる。(26ページ(6)行〜27ページ(3)行)

2 詩の心② (2) 詩の心における「 (**感じる**) 作業」とは、日常見慣れたり聞き慣れたりしているものに、改めて新しい反応を示し、驚くことといえる。(25ページ(6)行〜26ページ(5)行)

1 詩の心① (1) 詩の心、といっても特別なものではなく、私たちが、ある「もの」に対し (**素直**) に向かを感じ、素朴に心を動かすところから始まる。(初め〜25ページ(5)行)

得意する 全文を読み、文章の構成を確認しよう。

詩の心—発見の喜び

- 詩の心は日常に感じ、詩を讀むと驚く。
- 詩の心は日常に感じ、詩を讀むと驚く。
- 詩の心は日常に感じ、詩を讀むと驚く。

1 文章の構成を詳しくしよう。

2 「虫」(26)の詩について、次の問いに答えなさい。

(1) 「虫が鳴いている」(5行)とありますが、虫はどのように鳴いていますか。詩の中の二行を抜き出して書きなさい。

**いま ないておかなければ
もう 駄目だ** というふうには鳴いている

(2) この詩には、どんな思いが込められていますか。次から一つ選び、○を付けなさい。

A のんきそうに浮かんでいる雲を離す思い。
 イ 雲よりも早く目的地に着きたいという思い。
 E 雲のように気ままに旅をしたいという思い。
 E 手の届かない存在である雲を感じる思い。

切羽詰まる	どうにもならなくなる。
単純	複雑
痛ましい	かわいそうで、見ていて心が痛むさま。
光景	景色 風景
比喩	あるものを、他の物事を借りて表すこと。
もたらす	例 例 努力は良い結果をもたらす。

技巧	例 例 技術的な工夫、テクニク。
悠然	例 例 ゆつたりとしている様子。
願望	例 例 願い 希望
純真	例 例 清らかでけがれのない様子。
反応	例 例 人々の反応を観察する。

2 次の語句について、辞書を使って調べよう。

素朴	例 例 素直
隠れる	例 例 新鮮
話まる	例 例 真剣
比喩	例 例 結核
	例 例 三歳

2 次の漢字をなぞり、漢字の右側に読み仮名を書こう。

解説

2 三編の詩を鑑賞する文章の中で、「初めて見たり聞いたりする」(25・5)、「命の声と聞く」(26・2)、「じつと見つめ」(26・13) というように、見ることや聞くことに関する表現が用いられていることに注意する。

① 読む (言語感覚) 詩の心—発見の喜び

(4) あなたは、この詩の持つどんなことに驚きや感銘しましたか。簡潔にまとめましょう。

例 蜂の様子が、目に見える姿ではなく、羽音という音の変化で表されていること。

- (3) この詩で用いられている表現技法を次から二つ選び、○を付けなさい。
- A 直線 (1) 隠蔽 (2) 反復
 E 間投 (2) 体言止

(2) 「雲を思ふ赤い部屋」とありますが、①「雲」、②「赤い部屋」とは、それぞれ何をどう表現していますか。

① (**蜂**)
 ② (**チエーリツプ(の花)**)

(1) 「蜂の羽音がチエーリツプの花に消える」とは、どんな様子でしょうか。簡潔に書きなさい。

例 飛んできた蜂が、チエーリツプの花を見て、(蜜を吸いに)中へ入っていった様子。

2 三編の詩を通して、鑑賞文の書きが伝えようとしていることを理解する

1 「詩の心は求めているのです。」(25)とありますが、詩の心が求めているものを、文中から三十字以内(三十五字以内)抜き出して書きなさい。

例 今まではよく見えなかったものを見、よく聞こえなかったものを聞く喜び

- (2) 虫の音を聞いて、どんな気持ちになったことが描かれていますか。詩の中の言葉を用いて、簡潔に書きなさい。
- 例 じつと涙をさせられるような気持ち。
- 3 「土」(26)の詩について、次の問いに答えなさい。
- (1) この詩には、どんな情景が描かれていますか。次の□に字数の合った言葉を書きなさい。
- 蜂が、蜂の羽をひいて行く音
- (2) どのような情景は、何にならえていますか。詩の中から抜き出して書きなさい。
- (**ヨット**)

1 「チエーリツプ」では、何を見て、何を聞き、それをどのように工夫して表現したのか、ということに着目しながら鑑賞してみよう。

詩の分類

文体的分類

- 文語詩……文語(昔の言葉)で書かれた詩
- 口語詩……口語(現代の言葉)で書かれた詩

文壇は平安朝時代の文壇をもとにした語彙のことで、口語とは現代の文壇による語彙のことです。昔の伝説(歴史的仮名遣い)で書かれた詩でも、現代の文壇で書かれているもの(仮に出した語遣い)にも現代の語彙が使われる(例)は口語詩です。例えば「詩の心—発見の喜び」で取り上げられている三編の詩は、全て口語詩です。一方、次に説明している「雲」は文語詩です。現代文壇では「かりこもる」となるといって、昔の文壇によつて「うつつも」としています。

形式上の分類

- 仮名遣い……詩句の字数などの点で、伝統的に定められた型のある詩(短歌・俳句など)
- 自由詩……詩句の字数などは決まりのない詩
- 散文詩……筆調の文章(散文)のよみで書かれた詩